
文化祭は狂人達の宴と化す

綾鷹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

文化祭は狂人達の宴と化す

【Nコード】

N6971D

【作者名】

綾鷹

【あらすじ】

奴等は戦う。全ては文化祭で栄光を掴むために。

ブログ

十一月中旬に訪れる学校の一大イベント。

『文化祭』

日頃の勉強に疲れきった生徒達が一心不乱に騒ぎ立てる祭である。
特に東第一高校の狂乱ぶりは他の学校の比ではない。
それも全ては学校が定めた特典にある。

『優勝クラスには賞金100万円を進呈』

実に馬鹿げた話だが、この学校ではそれがまかりとおってしまう所が凄い。

校長曰く『目標に向かって全力でぶつかって行くのが人間の本質であり、これはそれを体現したものである』ということらしい。

優勝クラス、すなわち一番売り上げもしくは客数をあげたクラスのこと。

ルールは一切ナシ。

合法であるならばどんな手段をとっても構わない。

時には友と拳を交わし、恋人すら欺き、先生をも利用する。

その全ては勝利を手にするため。
いや、100万円を手にするために彼ら、彼女らは戦うのだ。

転校初日の朝

「はぁ……やっぱり転校初日っていうのは緊張するな」

僕はネクタイの歪みを何度も気にしながら初めての通学路を歩いていた。

画家という父の仕事のせいで高校生になってから何度も経験していることだけど、いつまで経っても慣れない。
しかも、ブレザーにネクタイは初めてだし。

「今度の学校は普通だといいいけど……」

前の学校じゃあ不良だらけで勉強どころじゃなかったからね。
というか、いじめられてたし。

「はぁ……」

僕は今日で何回目かわからないため息をついた。
気が付くと、もう目の前には校門が見えている。

どうやら覚悟を決めるしかないようです。

僕は祈りながら校門を抜けた。

校舎までの道はしんとしていて生徒の姿も見えない。

それもそうだろう。ゆっくり歩いていたせいで時間がギリギリなのだから。僕はまず職員室に向かった。

一度、挨拶に来たので場所はわかる。

この学校の職員室は正面玄関の脇を真っ直ぐ行った所にあつた。

職員室というプレートを一応確認しつつ僕はノックして中に入る。

何人が残っている先生達の視線が僕に集まった。

「あ、やっと来た」

その中の一人の先生が僕を見て言った。

確か、僕の担任になる山瀬 翔子先生だったかな。

三年前に教師になったばかりみたいで若い先生だった。

「中山 宗太君だよね？」

名簿で確認しつつも自信無さげに僕に聞いた。

「はい。今日からよろしくお願いします」

初めて会った時にも言ったけど、改めて言うと、先生も笑顔でよろしくと答えてくれた。

でも、すぐに時間がないからと教室へと案内された。

移動の途中で僕のクラスは2　Bだということを聞かされた。

「でも、よりによってこの時期にここに転校してくるなんて大変ね」

「はぁ……それはどういう意味ですか？」

この時の僕には先生の言葉の意味がわからなくて

「すぐにわかるわ」

なぜ苦笑いなのかもわからなかった。

そう。

教室の扉を開けるまでは……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6971d/>

文化祭は狂人達の宴と化す

2010年12月3日06時10分発行